

平成23年度 鹿島市立北鹿島小学校 学校評価計画

1 学校教育目標 命・ひびきあい 共に生き、共に生かし、共に生み出す 子どもの育成	
2 学校経営ビジョン 1 命・ひびきあう子ども ・互いの存在や考え方・生き方をみとめあう子ども。 ・様々な学習体験や生活体験のなかで学びあい・表現しあう子ども。 ・主体的な問題解決能力や豊かな感性、感動する心をみがきあう子ども。 ・子ども一人一人を、愛情をもって理解し、受け止める教師。 2 命・ひびきあう教師 ・実践とおして切磋琢磨する教師。 ・勇気と汗、智慧とアイデアを出し合って連携・協働する教師。 ・やさしく温かなまなざし、今と未来を見据えるまなざしに溢れた学校。 3 命・ひびきあう学校 ・「なぜだろう」「不思議だな」「やってみよう」と、意欲と活気に溢れた学校。 ・伸びる喜びを実感し、一人一人の命の輝きに溢れた学校。	

3 本年度の重点目標 ①子どもが命を輝かせて学び、一人一人の自己実現につながる教育の創造。 ②職員の連携と協働、主体的な学校運営への参画による教育活動の活性化。 ③学校、家庭、社会が融合して命をはぐくむ地域の中の学校づくりの推進。	4 前年度の成果と課題 ・「地域の力の学校」として地域の力を十分に受けながら、体験活動を中心におき、心豊かな児童を育成する。様々な情報を基方向で共有し、家庭・地域・学校の連携をさらに深めていく。 ・「心の教育」「学力向上」「健康・体づくり」の推進については、本年度も重要課題とする。 ・評価項目を学校教育目標の手段であるプロジェクトによって具現化する。また、評価項目を具体的な数値や評価方法にすることにより、信頼性の高い評価にする。
--	---

5 総括表

① 子どもが命を輝かせて学び、一人一人の自己実現につながる教育の創造

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校経営方針	・本年度の教育目標及び重点目標の周知	教職員、保護者へ周知し、認知度を教職員100%、保護者80%以上にする。	・職員会議での説明、校内掲示の徹底。 ・PTA総会、役員会、学校便り等で説明する。 ・地域、支援会議団体へ説明し、協力要請を行う。
教育活動	●学力向上	「おしくく学びプロジェクト」による学力向上推進	・学習道具の準備を忘れずにしてくる児童を85%以上にする。 ・毎日宿題を忘れずにしてくる子を85%以上にする。 ・学習用具の準備、学習への構え学習の仕方を身に付けさせる。	・「北小勉強の約束12条」を教室に掲示し、全職員が共通理解のもとで指導を行う。 ・学習習慣の育成についてのアンケートを実施し、指導に生かす。 ・「北小学びの通信」を発行、保護者の理解、協力を得る。 ・授業や集会活動でいきいきと表現できる児童を育てる。
		・少人数・T.Tの授業による学力の向上	・市販の単元別テストにおいて算数のポイントを全国比で2ポイント以上に上げる。 ・高学年は前年比2ポイント以上に上げる。	・校内研究で効果的な指導方法を模索する。 ・指導方法、理解と定着状況について情報交換の場を設定する。 ・学習資料の共有を図る。 ・算数科の授業の中でかた活動を充実させ、自分の考えをしっかりと書けるようにさせる。 ・計算タイムを実施し、基礎的な計算力を付ける。 ・学習したことの定着を図る目的で計算検定を行う。
	●心の教育	「L」のつくりハートプロジェクトによる心の教育推進	・あいさつのできる子どもの育成。 ・整頓された学校にする子どもの育成。	・あいさつ運動を実施する。 ・ゴミを拾う、落とさない習慣を継続して指導する。 ・ボランティア委員会による花いっぱい運動の実施。 ・具体的な生活目標を設定し、目標達成のための具体的手立てを設ける。 ・班長会を開催し、登下校時の情報を収集したり、指導したりする。
		道徳の授業の充実	・保護者・地域に道徳の授業を年1回以上公開する。	・職員朝会などで気になる子の情報を交換し、共有する。 ・実施を把握するためにアンケートを実施する。 ・教育相談室を実施する。 ・随時教育相談会議を開く。 ・教職員の資質向上のために、職員研修を実施する。
		人権・同和教育の充実	・人権を尊重した居心地のよい学級づくりをする。 ・教職員全員参加による研修会を実施し、教職員の資質向上を図る。	・人権集会の実施。 ・標語、作文に取り組み、意識の高揚を図る。
	●健康・体力づくり	「北まで元気プロジェクト」による健康教育促進	・自発的健康・安全活動の充実を図る。 ・進んで運動しようとする児童を80%以上にする。	○体育の授業を充実させる。 ・校内研修を学割2回実施する。 ・学習資料の共有を図る。 ○たてわり活動を充実させる。 ・班別のスポーツ大会を学期に1回実施する。
○特別支援教育	特別支援教育の推進	・児童一人一人の教育的ニーズに応じた目標を個別の指導計画に取り上げ目標を達成する。	・職員の研修会を年3回以上実施し特別支援に対する研修を充実させる。 ・うれしの特別支援学校との連携を図り、随時相談や研修会を設定する。 ・手立てを明確にし、情報交換を行う。	

② 職員の連携と協働、主体的な学校運営への参画による教育活動の活性化

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○開かれた学校	・授業、施設等の開放	・学校行事、授業参観日等の参加者70%以上にする。	・学校だより、校長だよりでの行事の紹介 ・学校だより等での授業参観の内容について紹介。 ・メール配信 ・PTA会長、本部役員との密接な連携と協働体制の確立。 ・学校評価の公開。
		・保護者、地域との連携推進	・地域人材の教育活動への活動促進を図る。実施を合計20回以上にする。	・体験活動支援会議を中心に、保護者や地域の方をゲストティーチャーとして教育活動に活用する。 ・合同運動会を地域と連携協力して実施する。 ・情報発信を細かくし、北鹿島地域見守り隊を活用する。
	○危機管理体制	・児童の安全確保	・安全安心の学校であるために、保護者や地域の協力体制の充実を図る。 ・学校内外の安全指導の徹底。 ・学期1回職員による校外パトロール実施。	・安全マップを更新する。 ・毎月安全点検を実施し、迅速な対応をする。 ・児童の実態に合わせた避難訓練や火災訓練、不審者対応訓練の実施。 ・地区児童会・班長会を開催し地区担当による細かな指導を行う。 ・PTAとの迅速な情報提供と密接な連携。 ・校外の危険箇所を確認及び点検。
	○省エネ効率化	「エネ効率化プロジェクト」による省エネ効率化推進	・学校全体に関して、省エネ化を図る。 ・予算概要の提示と効率的運用を図る。 ・教材・設備の整備。	・学校運営支援室と協議した事務の共同実施を行う。 ・予算の配分と計画的運用を実施する。 ・安全点検の結果を受け、迅速な対応をする。
教育活動	●心の教育	福祉教育の推進	・福祉について考える機会を年7回以上設ける。 ・福祉について身近に考えることができる児童を育てる。	・地域の方を招待して、ふれあいタイムを実施する。 ・体験活動を通じてお世話になった方に、手紙を書いたり、会を開いたりして感謝の気持ちを伝える。 ・各種の募金活動に取り組む。
			・福祉について考える機会を年7回以上設ける。 ・福祉について身近に考えることができる児童を育てる。	・地域の方を招待して、ふれあいタイムを実施する。 ・体験活動を通じてお世話になった方に、手紙を書いたり、会を開いたりして感謝の気持ちを伝える。 ・各種の募金活動に取り組む。
	○複数担任制による指導の充実	一人一人の特性を生かしながら、集団適応、学力向上等の推進	・基礎基本の定着 ・基本的な学習習慣の定着 ・職員間の共通理解ときめ細かな個に応じた指導の工夫。 ・支援員による児童のニーズに応じた学習支援。	・習熟度別学習を推進する。 ・職員間の連携を密にするために、打合せに時間を月曜日に確保する。

③ 学校、家庭、社会が融合して命をはぐくむ地域の中の学校づくりの推進				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○体験活動	「まんだく仲間プロジェクト」による体験活動推進	・体験活動の計画的実践を行う。 ・各学年で体験活動を年2回以上行い、地域とのつながりを感じることができる児童を育てる。	・昨年までの活動を見直し、これまでの実績を生かした計画を立てて、実践する。 ・体験活動について全職員の共通理解のもと、1年間を見通した計画を立てる。 ・体験活動支援会議を開き、計画を伝え、協力を依頼する。
		●健康・体力づくり	食育の推進	・朝食をバランスよく食べてくる児童を80%以上にする。
		生活リズムの見直し	・早寝早起きの習慣を定着させる。	・元気もりりカードの実施による実態調査を実施し、推進する。
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
特定課題	●小学校低学年の学習習慣の改善充実	基本的な生活習慣の育成	・給食後の歯磨きをきちんとする1年生児童を90%以上にする。	・給食終了5分前に、歯磨きタイムを設け、DVDを活用し、正しい磨き方の指導を行い、全員が一掃に歯磨きをする。
			衛生習慣を身につけることのできる2年生の児童を80%以上にする。	衛生面での約束を設け、必要に応じて家庭との連携を図る。
		基本的な学習習慣の育成	・教師の話最後まで聞くことができる1年生児童を80%以上にする。	・話の聞き方の2つのポイントを徹底して指導する。
			・話を最後まで聞くことができる2年生児童を80%以上にする。	・正しい姿勢と話の聞き方のポイントを徹底する。

●は共通評価項目、○は独自評価項目